

くまがや

だんらん

第8号

熊谷市・熊谷市青少年健全育成市民会議

25. 1. 1

家族とのもちつき

大幡小学校六年

四分一 翔太



幸せを噛みしめる

〜家族の存在〜

大幡中学校三年

松本 有香里

ある日、ふとテレビをつけてみた。画面を見て、その光景に驚き唖然とした。それは、親に置き去りにされ、子ども同士で生活している光景だった。中には、路上暮らしをしている子どももいた。

その時初めて、家族と毎日一緒にいるのは当たり前ではないということを知った。ところが、最近の私を思い返してみると、家族に向かって、「うるさい。ほっといて。」などと暴言をはくことが多々あった。私よりも小さい子どもたちが、毎日つらい思いをしているというのに、私は何でぜいたくばかりしているのだろうと情けない気持ちでいっぱいになった。

それだけではなく、私はとてもとても大切なことを忘れていたのかもしれない。

私たちは、誰もが母のお腹から生まれてきた。家族の手がなければここまで大きくなっていない。重い病気もなく生きていられるのは、家族の支えがあったからだ。

ずっと支えてくれた家族に、面と向かって「ありがとう。」を言ったことがあるだろうか。普段は、恥ずかしくて、言葉に出して言えないが、今ここの言葉で伝えたい。

「いつも支えてくれてありがとう。」

感謝の気持ちを毎日忘れず、家族と過ごす時間を大切にしていきたい。家族と毎日一緒にいられる幸せを、深く、深く、噛みしめたい。

わが家の金メダリスト

石原小学校五年

山川 明日加

わたしの家族は六人家族
おじいちゃんは

笑顔の金メダリスト

おばあちゃんは

元気の金メダリスト

お父さんは

愛情の金メダリスト

お母さんは

やさしさの金メダリスト

おねえちゃんは

おもしろさの金メダリスト

わたしは何の金メダリストになれるかな

そんな金メダリストの家族が

わたしは大好き

大幡中学校三年

前田 星

家族の愛

言葉に隠れた

本当の心



大切な愛情、を
吉岡中学校三年
松本万宝

笑顔

市田小学校六年

遠井翔大



笑い声 ひびけば みんなの
笑顔のリレー

笑い声 我が家は
増えると 明るい家族

妹の声 キヤキヤキヤ
ぼくの声 ワハハ
お母さんの声 ウフフ
お父さんの声 アハハハ

これがぼくの家族の
笑顔のリレー

江南中学校三年
中嶋優希

食卓を
家族で囲めば
寂しさ半減
美味しさ倍増

六人家族になったよ

籠原小学校三年

飯島莉子

八月十六日にとつと楽しみにしていた妹が生まれ、わたしの家族は六人になりました。

赤ちゃんはとつとも小さくて、びっくりしました。三キロもないそうです。おっぱいをおいしそうに飲む様子を見ていたら、

「莉子はおつと小さかったんだよ。」と、お母さんがなつかしそうに言っ

教えてくれました。

お母さんから、赤ちゃんが八月に生まれると聞いたのは春のころでした。お母さんのおなかは少しずつ大きくなり、わたしがおなかをさわると、ぐにっと動いたり、びくっと動いたりして、まるでわたしの声が聞こえているようで、早く会いたいと思っていました。

わたしや妹、弟は、お母さんといっしょに買い物に行った時には、荷物を持ってあげてなるべくお手伝いもするようになりました。そんなわたしたちを見て、お母さんはいつもうれしそうでした。

けれど、祖母が一人になってしまおうでお泊りもしています。

祖母の家に帰って私は、まず祖父にお線香をあげます。

「じいちゃん、ただいま。今日も見守ってくれてありがとう。じいちゃん修行がんばってね。」と言います。私の祖父は、今、天国に行くために、いろいろな神様に勉強を教えてもらっています。それが、『修行』です。祖父には、生前、苦しかった分、天国に行つて、ゆつくり体を休めてもらいたいと思いました。

お母さん

妻沼小学校六年

田原彰大

ぼくの家は、お母さんと二人家族です。

夕飯にカレーをお願いした時のことです。

「ちよつとお願ひ」

台どころにいたお母さんに呼ばれました。そしたら、ニンジンとジャガイモがまな板の上にありました。ぼくは、すぐ切るんだと思いました。

「たまには、手伝つてね。」といわれました。

家庭科でならつたとおり、かわをむいて一口大に切りました。

タマネギをいためている鍋にぼくが切つたニンジンとジャガイモを入れました。水を入れて少しにこんで、カレールーを入れてさらにかき混ぜながらこみました。

その様子を見ていたお母さんが「やるじゃん。」

と、ほめてくれました。

お母さんは、サラダをもりつけて、ちよつどカレーもできあがつておさらによそつて、食べた時に「うまい。」

と、大げさに言いました。

お母さんは、よくおこりますがよくほめてくれます。

そんな自慢のお母さんが大きいです。

私の生活

中条中学校一年

濱野真伊

「ただいまあ。ばあちゃん。」

「おかえり、真伊。」

私は、最近祖父が亡くなつてから祖母の家に帰っています。毎日ではない



Grand ma

祖父が亡くなってからの生活は以前ととても変わりました。それで、疲れしてしまうこともあります。けれど、祖母はもつと悲しく辛いと思います。だから、私は祖母に迷惑をかけないように生活し、祖母をなるべく支えてあげたいと思います。これからも、一緒に過ごす時間を増やして、祖母に長生きしてほしいと思います。

親子

大幡中学校三年
新田 優利



だっこだっこの夏休み

久下小学校四年
大嶋 菜月

夏休みに、私のクラスではおもしろい宿題ができました。一週間に一回、家族全員から一分間だっこをしてもらおう、という宿題です。私は、「えー、はずかしいな。」と、その時は思っていました。

夏休みに入ってから、親せき十二人で旅行に行きました。その夜、さっそくお母さんにだっこしてもらいました。心がポカポカして温かくなりました。最初に思っていた「はずかしいな」という気持ちがなくなり、とてもうれしくなりました。

次に、親せきの人にもお願いしました。みんな、私が生まれたところから知っているのです。

「大きくなったね。」
「久しぶりだね。もうこれが最後かな。また、だっこさせてね。」

などと言いながら、笑顔でいつぱいになりました。赤ちゃんのころの話も聞き、楽しい夜でした。みんなが私を大好きなことも、だっこをしてもらって感じました。

私はそれから、ほとんど毎日だっこをしてもらっています。私は、夏休みあけも時間があつたらだっこをしてもらおうと思っています。

成田小学校六年
多田 朱里
ぬくもりを
感じる母の
おみそ汁

家族の意味

玉井中学校二年
井澤 里菜



家族
暖かくて
やさしくて

悲しくてもさみしくても
いつでも包みこんでくれる
何でも分かってくれる

たとえ私が泣いていたとしても
抱きしめて痛みを感じてくれる
それが家族

口答えしても嫌になっても
ずっと家族

あたりまえすぎて言えなかった
でも本当に本当に
「大好き」

妻沼西中学校三年
中里 圭
温かい
家族の笑いが
響く夜

みんなで花火

熊谷西小学校三年
大竹 摩弥



みなさんのご協力を得て、今年度も心温まる作品を沢山掲載することができました。

集まった作品からは明るさや優しさ、思いやり、感謝など家族に対する子ども達の思いが伝わってきます。そして、読む人に家族の大切さを感じさせてくれます。

「だんらん」とは家族が集まって、楽しくなごやかに過ごすこと。

自分が安心し、自分らしくいられる家庭。自分のことをいつも大切に感じ、支えてくれる家族。一緒になって笑ったり、小さなことでも幸せに感じ合える家族。家族の良さを実感できる場面は沢山あります。そのことに気が付き、互いが互いを感謝し合える気持ちが大切なのではないでしょうか。

文章から伝わる子どもの気持ち。絵から伝わる子どもの思い。様々な家族のだんらんから生まれた感謝の心を読み味わっていたら、あたり前のように思っている家族の温かさを改めて感じていた。ただ、それをお願いしています。

(妻沼西中 井上詠子)



文集「だんらん」第八号は次のとおり展示します。ぜひご覧ください。

◎市役所(本庁舎)一階ホール
一月四日(金)から十八日(金)
八時三十分から十七時十五分まで。
ただし初日は十三時から、最終日は十四時まで。

編集後記

文集「だんらん」は、二一、〇〇〇部作成し、印刷製本にかかる市の負担は、一部あたり二十一円です。

くまがや
だんらん
第八号

編集・発行 熊谷市青少年健全育成市民会議